

2015年5月29日口永良部島噴火の屋久島における火山灰分布調査

2015年6月5日

国立研究開発法人防災科学技術研究所

5月30日に防災科研が屋久島を一周する形で調査した結果では、北西部から南部にかけての地域で火山灰の堆積が確認された(第1図)。また、住民に聞き取りした結果では、降灰の北限は永田と安房を結ぶ線付近であった。なお、島の東部などの降灰の少なかった地域では、30日午前11時頃からの激しい降雨の影響で防災科研の調査時までには火山灰は失われた可能性が高い。

以上の防災科研の調査結果に産業技術総合研究所から提供された、屋久島地学同好会の中川正二郎氏が5月29日午後に屋久島西部で調査した結果を合わせると、図2のような堆積量分布となった。

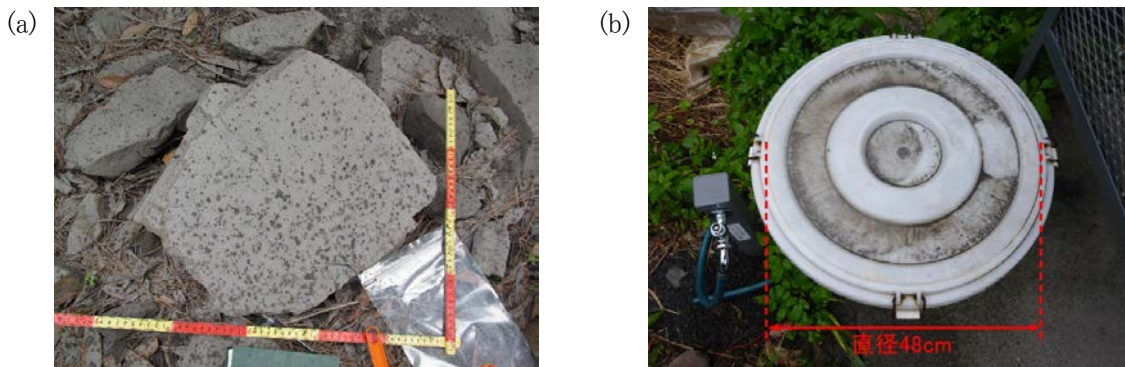


図1:火山灰の堆積状況

(a).西部林道沿いの地点(図2の(a)地点:堆積量 $350\text{g}/\text{m}^2$)の火山灰。黒い斑点は降り始めた雨の雨滴痕。
(b).南部恋泊の県道沿いの地点(図2の(b)地点:堆積量 $17\text{g}/\text{m}^2$ 以上)の火山灰。ゴミ収集用のポリバケツのふたの凹部に雨水とともに火山灰が残存している。

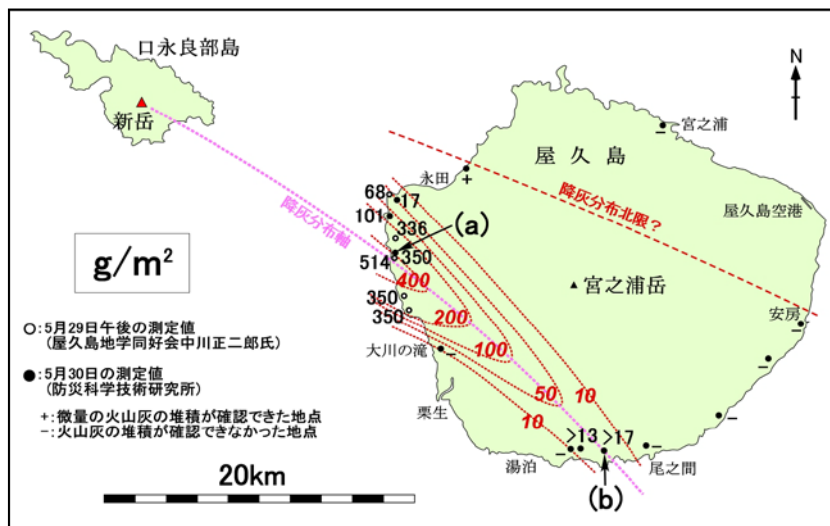


図2:火山灰の堆積量分布図 図中の(a),(b)は図1の(a),(b)に対応する。

この調査は国立研究開発法人産業技術総合研究所と共同で行われました。